

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 2009年10月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4079500114		
法人名	有限会社 良正会 糸田苑		
事業所名	良正会 グループホーム 糸田苑		
所在地 (電話番号)	〒822-1325 福岡県田川郡糸田町1698番地1 (電話) 0947-26-4515		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		
訪問調査日	平成21年10月20日	評価確定日	平成21年11月12日

(情報提供票より)平成21年10月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年11月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	専任 15人, 兼務 3人, 非常勤 3人, 常勤換算 19.8人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築 8年
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	4 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 6,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日 当たり 860 円		

(4) 利用者の概要 (10月4日現在)

利用者人数	26 名	男性 8 名	女性 18 名
要介護1	9 名	要介護2	9 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 85 歳	最低 72 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	糸田町立緑ヶ丘病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中元寺川から町役場を通り、住宅街の一角に4階建ての2階と3階部分に3ユニットのグループホーム糸田苑がある。玄関からのエレベーターで3階に上がると、利用者が、お絞りたたみや、口腔体操をしながら昼食の準備を始めている風景がみられる。地域の中で自分らしく暮らし、喜びと悲しみを分かち合うメリハリの効いたものになるよう工夫されている。開設して7年を迎え、地元の敬老会や文化祭等に参加し、ホームの運動会、中学生の体験学習や幼稚園児と一緒に餅つき等、地域の交流も活発になっている。また、ターミナルケアの指針を作成し、利用者や家族が望む関係者で常に話し合い共有し、家族からの信頼も厚いグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目は9項目あったが、管理者、職員の努力で5項目が改善されている。「評価の意義の理解と活用」、「市町村との連携」、「人権教育・啓発活動」、「消防や地域住民と合同での避難訓練の実施」など改善に向けた取り組みが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、各ユニット毎に管理者が作成している。管理者は、職員全員に評価の意義や目的を伝え、職員一人ひとりが自己評価に取り組み、介護サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、利用者、家族、民生委員、役場職員、ホーム管理者、職員で構成され、2ヶ月に1回開催している。ホームの行事や利用者の状況を報告している。参加者から出された意見は、話し合いを行いサービスの質の向上に活かしている。、今後は運営推進会議を活用、発展させるために、地域の方や有識者等の参加を募っていく事が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族が意見が言い易い雰囲気作りを心がけ、家族の来訪時や電話などで、常に声かけを行い意見や要望を伺うようにしている。また、家族会を開き、意見や要望を出してもらいサービスの質の向上に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の敬老会や文化祭への参加、ホーム行事の運動会や夏祭りなど地域の方にも参加してもらっている。また、中学生の体験学習や幼稚園児との餅つきなど、地域との交流を積極的に持つようにしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の「自分らしさ」を大切に喜びや悲しみを分かち合い、地域の中でやすらぎのある、暮らしを支えるホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で職員全員で唱和し、理念のもとに日々の業務に取り組み、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会に参加し、文化祭には利用者の作品を毎年出品している。地域の中学生の体験学習の受け入れや幼稚園児と餅つきをしたり、ホーム行事の運動会や夏祭りなど地域の方にも参加してもらい交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価実施にあたり、職員には自己評価に対する説明は行っている。自己評価表については、各ユニット毎に管理者が作成している。		職員全員で自己評価に取り組むことで、職員の意識・質の向上に繋がっていくと考えられる。職員全員で自己評価に取り組む、改善に向けて具体案の検討や実践が望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、民生委員、役場職員、ホーム職員が参加し2ヶ月に1回開催している。ホームの行事報告や利用者の状況報告をし、参加者からの意見などをサービスの質の向上に反映している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での、市町村担当者との連携はとれていない。		ホームの課題や現状を積極的に伝える機会を作り、情報を共有し解決を図っていく取り組みや、開設して8年の経験を活かして、認知症に対する地域の方の理解や相談事業を行政と協働していくこと等が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	<p>権利擁護に関する制度の理解活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>ホーム内で勉強会を開き、成年後見制度や日常生活自立支援事業について学んでいる。現在該当者が1名おられ、制度利用の申請をしている。必要なケースに対応できるよう支援体制を整えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月苑便り、個人便りを作成し家族に郵送している。また、来訪時に近況を説明したり、金銭出納簿を確認してもらっている。利用者の健康状態に変化があれば随時、家族に連絡をしている。</p>		
9	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には電話や来訪時など、常に声をかけ意見が言い易い雰囲気作りに留意している。家族会を設け、意見や要望を出してもらい、運営に反映させている。</p>		
10	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内での異動は基本的には無く、ここ1年間での職員の離職もなく、馴染みの職員によるケアが実践できている。</p>		
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては性別や年齢等は制限していない。職員の得意分野を活かしながら、互いに協力し合い生き生きと勤務できる体制がある。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる</p>	<p>毎日の業務の中で人権については常に触れ、内部研修を行い人権に対する意識を高めている。</p>		<p>外部研修への参加や内部研修の充実を図り、研修記録を残して人権研修、啓発活動に繋げていくことが望まれる。</p>
5. 人材の育成と支援					
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者が年間計画を作成し、テーマ別に職員が発表し、意見交換しながら内部研修会を行っている。外部研修会には出来るだけ参加できるように勤務を調整し、費用もホームが負担している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している。法人内のグループホームと合同で行事を行ったり、意見交換会を行ったり、交流の場を持ちサービスの質の向上に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、本人、家族と話し合い見学や体験をしてもらい、他利用者や職員、ホームの雰囲気に馴染めるよう工夫し、納得した上で利用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、理念にある「人生の先輩から生きる知恵を学びます」を日々実践し、利用者から色々なことを学び、喜びや悲しみを分かち合い、共に支えあう関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には家族から情報を得たり、日々の表情や行動から汲み取り本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議を毎月定期的開催し、本人、家族から意見や要望を聴き、職員全員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、本人、家族の意見や要望を取り入れ計画の見直しを行っている。利用者に状態変化があった場合は、随時計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院介助の支援をしている。また、理学療法士に来院してもらい、利用者一人ひとりに合った機能訓練を実施している。法人グループと合同での行事などを行い、他者との交流を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医や、協力医療機関での受診や往診、24時間体制の医療機関との連携で、緊急時の対応を整えている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針を作成し、本人、家族に対し説明を行っている。過去に事業所での看取りを実践しており、その時々状況に応じて、関係者と話し合いを行い、関係者全員で方針を共有しながら支援している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切に、プライバシーを損ねないような言葉遣いや対応を徹底している。個人記録等についても、人目につかない場所や施錠の出来る場所に保管する等、取り扱いに配慮している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、職員は利用者一人ひとりの体調や、その時の気持ちを尊重しながら柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の好みや苦手なものを把握して、できるかぎり対応するようにしている。食事の準備や片付けなど利用者と共に、職員も同じテーブルで楽しく会話をしたり、さりげない介助をしながら食事をしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入れる体制である。入浴時間は一応決まっているが、利用者の希望に出来るだけ対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おやつ作りやおしぼりたたみ、エプロンの洗濯、プランターで寄せ植えをしたり、利用者一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけて支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望やその日の体調、天候に応じて、散歩や買い物に出かけている。また、月に1度は外食に出かけたり、理・美容院など希望に沿って外出の支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、ホーム内で避難訓練を実施し誘導方法や避難経路の確認をしている。		消防署と合同での訓練や夜間を想定した避難訓練の実施、近隣住民の協力を得て、避難訓練に参加してもらうなど協力体制を築いていくことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を毎日記録し、全職員が把握できるようにしている。定期的に法人内の管理栄養士にチェックしてもらい、アドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下などには利用者が作った、季節に合った貼り絵が飾られている。食堂には畳みのスペースが設けられ、自宅と同じように過ごしてもらえるよう、様々な工夫がされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や好みの日用品を、家族に持ってきてもらい、居心地良く過ごせるよう配慮している。		